

第 179 回臨時国会の閉会にあたって

2011 年 12 月 13 日

全日本教職員組合（全教）

書記長 今谷 賢二

1. 10 月 21 日に召集された第 179 回臨時国会は、12 月 9 日、会期末を迎え、閉会しました。会期末ぎりぎりまで続いていた「会期延長、公務員給与削減の臨時特例法の強行」という政府・民主党を中心とする動きを押しとどめ、趣旨説明など具体的な委員会審議はまったく行わせない貴重な到達をつくって閉会し、法案は継続審議となりました。11 月 22 日から、寒風のなかでとりくまれてきた国会前座り込み行動への全国からの結集をはじめ、全国各地で教育全国署名などとも結んだ多彩な運動にご尽力いただいた仲間のみなさんのご奮闘に心より敬意を表します。6 月 3 日の法案の国会提出以後、全国のたたかいが国会を包囲し、半年余を経て審議入りさえ許していない運動と大きな世論に確信を持って、引き続き、法案強行を許さないたたかいに全力をあげることを呼びかけます。また、国会最終盤に、民主、自民、公明 3 党による密室談合によって、労働者派遣法の骨抜き修正がねらわれましたが、衆議院での委員会採決強行という緊迫した事態に至りながら、その成立を許しませんでした。ここにも労働者、国民の願いとたたかいの反映があります。政府・与党がねらう次期通常国会冒頭での強行を許さず、この流れを 2012 年春闘のたたかいに発展させ、労働者の雇用と暮らしを守る運動を大きく前進させようではありませんか。

2. この臨時国会では、東日本大震災にかかわる復旧・復興予算と位置付けられた第 3 次補正予算をはじめ、TPP 交渉への参加表明、消費税増税と社会保障・福祉の全面改悪を内容とする「社会保障・税の一体改革」、沖縄・普天間基地問題など民主党を中心とする野田内閣の政治姿勢そのものが問われる課題が次々と国民の前に明らかになりました。これらの課題に共通するのは、国民の生活や願いよりも、財界やアメリカの政治要求に沿って、国民に約束したマニフェストさえ投げ捨てた制度改悪が画策され、国会審議がゆがめられ、政治の混迷がつくられてきたことです。この「打開」をめざして、民主、自民、公明 3 党による密室での協議が繰り返されてきましたが、状況を変えるには至らず国会閉会となりました。2 大政党制の深刻な行き詰まりを示しています。

また、この臨時国会期間中には、衆・参の憲法審査会で初めての質疑が強行され、衆議院比例定数の削減がねらわれましたが、いずれもその意図を貫徹させずに会期切れを迎えています。国民の運動と世論の広がり大きな力を発揮した事態です。最終日の防衛相・消費者担当相に対する参議院での問責決議可決はその象徴であり、野田内閣が強行しようとする政策と国民の願いの間に埋めがたい矛盾が存在していることの証明です。

3. 国会閉会日となった 12 月 9 日、全教は「ゆきとどいた教育をすすめる会」に結集する広範なみなさんと力をあわせて、教育全国署名集約集会、国会議員要請などにとりくみました。集約集会時点で全国から寄せられた署名は、866 万筆余にのぼり、年末の 2012 年度政府予算編成に向けた力強い国民世論の結集となりました。この圧倒的な世論を背景に、被災地・被災者の声に沿った復旧・復興を要求するとともに、国の責任で少人数学級を前進させ、教育費無償の維持・拡充を求める運動を広げ、切実な教育要求の実現を迫りましょう。全教は、引き続き、全国のみなさんと力をあわせて、これらの運動に全力をあげる決意です。

以上